令和６年度　自己評価及び学校関係者評価書

令和７年２月２８日
函館市立北星小学校

1　本年度の重点教育目標

学び続ける子どもの育成　～インクルーシブ教育の充実～

2　本年度の取組の重点

(1)「まなび・こころ・からだ」を支える重点
①いのち…□生徒指導　□安全指導　　②ウェルビーイング…□教職員の意識改革　□家庭・地域から信頼される学校
(2)「まなび・こころ・かだら」の幼少接続・小中連携
③連　携…□幼少連携　□小中連携
(3)「まなび・ここ・ろからだ」の重点
④まなび…□教育課程　□学習指導　□特別支援教育　　⑤こころ…□学年学級経営　□道徳教育　□特別活動
⑥からだ…□体力向上　健康指導

3　自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
①いのち	いじめ、不登校や様々な問題行動に適切に対応するように努めている。	a	「いじめ見逃し０」を徹底するとともに、１人１台端末を活用した「こころとからだの健康観察」を継続し、早期発見に努めた。今後は、全ての子どもたちの成長を日常的に促す積極的な指導を組織的に行っていく。	A	A	・昨年度より改善されている。
	安全指導の充実に努めている。	a	PTA、CS、町会、関係機関等と連携し安全に関わる教育活動を実施することができた。今後は「はこだてこども 110 ばんのみせ・いえ」の充実　等、連携と協働のもと取組を拡大していく。	A	A	・110 の家や店には旗、登りなどで周囲にはっきり分かるような協力も含めてほしいと思います。 ・安全や子供の様子を伝えるとすぐ対応している。 ・下校時、先生方が見守りをしていますが、横断歩道まで出た方が良いと思う。
②ウェルビーイング	教職員の働き方改革を進め、教育の質の向上に努めている。	a	本校の時間外在校等時間は、着実に改善している。今後は、地域との「協働」も視点に加え、家庭・地域・教職員間でバランスある分担を実現していく。	A	A	
	ＣＳの取組を行い、家庭・地域・学校が目指す子ども像や教育目標、学校運営の基本方針を共有し、教育活動を充実させている。	a	ＣＳの機能を生かし、学校グランドデザインにより学校の教育方針を家庭・地域と共有し、学校支援活動を拡充することができた。今後は、学校内外の人的・物的教育資源等を積極的に活用し、さらに教育活動を充実させていく。	A	A	
③連携	幼児教育施設で育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施している。	b	新１年生体験入学の実施や入学前の各幼児教育施設との引き継ぎにより、小学校教育へのスムーズな接続に努めている。今後は、保護者や園児の学校行事等への参観・参加を促す等、可能な取組を検討していく。	B	A	
	巴中学校区の目指す子ども像に向けて、小中連携を図っている。	a	巴中学校区の小中学校へ本校の授業を公開し、互いの研修を深める等、充実した取組をすることができた。今後も小中連携のもと、義務教育９年間の学びの系統性・連続性を確立していく。	A	A	・北星小から巴中に進学したときの学校規模や距離的なギャップが大きいと感じます。小中連携の取組がその解消に少しでもつながればと思いますが、具体的な取組などがありましたら伺いたいと思います。
④まなび	教育課程の工夫・改善と、授業力向上により、質の高い学びを実現を目指している。	a	「少ない時間・時数で豊かに学ぶ」の考えのもと、効率的・効果的に教育計画を立てて実施することができた。今後は、日常の授業改善と授業力の向上を図り、学校教育目標を実現していく。	A	A	・少ない時間だからこそ、一人ひとりが集中できるようになると素晴らしいです。
	児童一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を行っている。	a	校内サポート委員会を置き、全ての教職員の共通理解のもと、きめ細やかで、適切な支援・指導に繋げることができた。今後は、校内指導体制の工夫や ICT の効果的な活用等により、一人一人の学びを充実させていく。	A	A	・少ない時間で全員が理解出来るかは難しいところなので、放課後学習やサポート教室は素晴らしいと思います。 ・得手不得手ありますが、人手が足りない時は協力します。

⑤こころ	一人一人のよさや可能性を生かした学年学級経営を行っている。	a	校内研修会で外部講師を招聘し、特別支援教育の視点を生かした指導方法について学び、日々の児童理解や学習指導をしてきた。今後は、安心して学び合い磨き合える集団づくりに力を入れる。	A	A	
	道徳教育や特別活動を充実させ、豊かな心を育んでいる。	a	外部人材等を活用し、人権教育やキャリア教育を推進することができた。今後は、望ましい人間関係を構築するとともに、多様な体験活動や自発的な活動を推進していく。	A	A	
⑥からだ	体育授業や体力向上の取組の改善・充実により、健康の保持増進を図っている。	a	縄跳び活動を導入したことで、子どもたちは「なわとびカード」により、自分の取組を可視化しながら継続的に体力向上に努めていた。今後も子どもたちが楽しさや喜びを感じながら、主体的に活動できるよう工夫していく。	A	A	
	家庭、地域と連携した健康指導により、児童の自己健康管理能力を育んでいる。	a	定期的に生活リズムシート等を活用し、家庭と連携しながら生活習慣の定着を図ってきた。今後は、家庭・地域を巻き込んだ取組を工夫し、子ども自身が自分の健康を守り、より良い生活を送ることができるよう導いていく。	A	A	

■　自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた	（８割以上）
b	概ね達成できた	（６割以上）
c	十分ではない	（４割以上）
d	達成できなかった	（４割未満）

■　自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり，取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが，若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが，若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。